



BEFORE THE DAWN

死線を 越えて

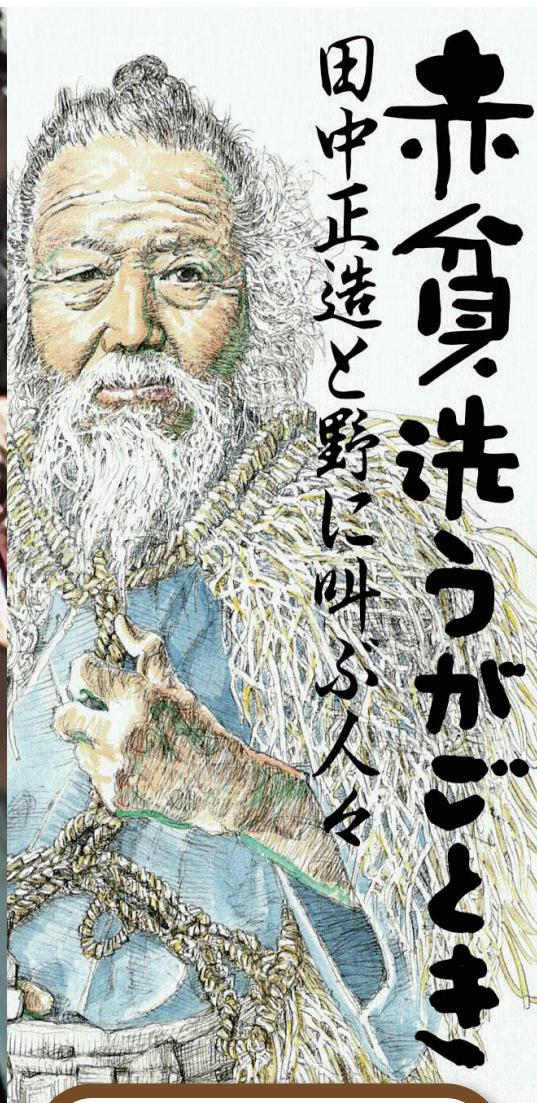
賀川豊彦物語



賀川豊彦
10/8(水)
18:00-20:05
(開場 17:30)



荒野に希望の灯をともす
医師・中村哲 現地活動35年の軌跡



中軽井沢図書館 2階 多目的室

軽井沢町長倉3037-18 中軽井沢駅

いい映画を観よう実行委員会では、今後も上映会を
続けていきたいと考えています。
お手伝いくださる方を随時募集しています。
集会、地区公民館、お店等での出張上映会もいたし
ますので、お気軽にご相談ください。

主催：いい映画を観よう実行委員会 090-8042-6572

入場無料

カンパのご協力をお願いします。
ペシャワール会への寄付と、チラシ代
等の経費に使わせていただきます。

定員50名様

（当日先着 10名様）
（ネット予約 40名様）

駐車場は 町営 中軽井沢駅前駐車場（中軽井沢駅 東側）をご利用下さい。
開館中に図書館カウンターへ駐車券を持参し、無料券をお受け取りください。

[インターネット予約・詳細情報](#)

<https://goodmovies.show-room.jp>



後援：軽井沢町 / 軽井沢町教育委員会 / 軽井沢町社会福祉協議会

作品紹介

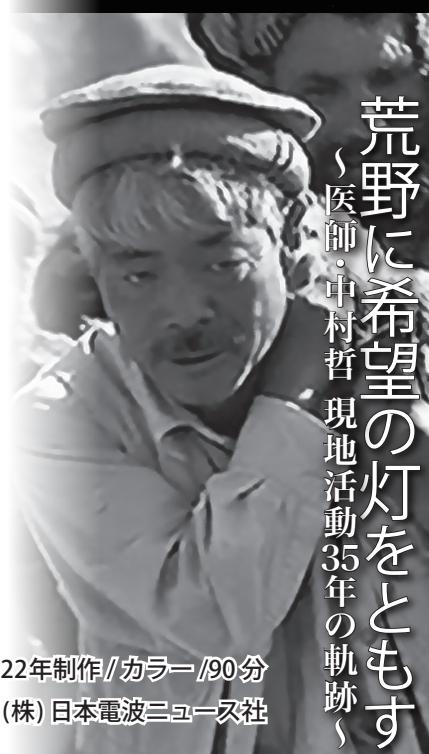
BEFORE THE DAWN



■ものがたり

熱心なキリスト教信者の賀川豊彦は医者から二年の命と宣告され、命ある限り人に奉仕しようと神戸の貧民窟に移り住んだ。しかし、そこに住む人々は皆賀川から金をかすめ取ろうとする。ある日家財道具をすべて盗まれてしまつた。そんな時行き倒れの出口が運び込まれ賀川は極貧の中で助けた。出口は恩人・賀川の弟子となり賀川はさらに貧しい人々のために尽くした。賀川は煙突掃除の仕事をしている時、印刷工場で働くキリスト教信者のハルと知り合つた。ハルはトラコマで片目が不自由ながら人のために尽くし、賀川はこの人こそ自分の伴侶と信じて結婚を申し込んだ。賀川はその後貧困を根本的に直そうとアメリカへ留学。労働組合の勉強へ出かけた。そして帰国後、川崎、三菱両造船の日本初の大ゼネストの指導者となつた。賀川は労働運動に身を投じ、何度も投獄もされたが、民衆のために戦つた。しかし、キリスト教的平和主義者の賀川は労働運動が激化する中で、協同組合や農協などの創立に力を注ぐよくなつた。生涯に二、三度と死を宣告された賀川は72歳で永眠するまで神を愛し民衆を愛した。

1988年制作／カラー／125分
(株)現代ぶるだくしょん



荒野に希望の灯をともす
(医師・中村哲 現地活動35年の軌跡)

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。

NGO 平和医療団日本 (PMS) を率いて、医療支援と用水路の建設を行つてきた。

活動において特筆すべきことは、その長さだけではなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、一貫していたことだ。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきた。

いま、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。

しかし、2019年12月。用水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらした。

だが、一方で私たちに強く問い合わせもある。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか。

もとに、現地活動の実践と思想をひも解く。

2022年制作／カラー／90分
(株)日本電波ニュース社



2008年制作／カラー／97分
(有)共同企画ヴォーグ

■あらすじ

日光・足尾山地を源流とする渡良瀬川、その恵を受けて沿岸では農業と漁業が盛んであった。

そこに明治の時代、日本の近代化、富国強兵策のもと、世界有数の規模を持つ足尾銅山が誕生した。しかし銅の生産による煙害で山は

禿山となり保水能力を失い、豊な村々を大量の鉛毒を含んだ大洪水が襲つた。魚は死に、農作物は枯れ、人の命までもが損なわれていった。被害農民たちは命をかけて立ち上がり、その中心にあり運動を指導したのは、「予は下野の百姓なり」という田中正造であった。鉛毒の原点といわれる足尾鉛毒問題に生涯をかけて闘つた田中正造と多くの「野に叫ぶ人々」。

鉛毒を隠し銅山を守ろうとする明治政府の姿勢に異議を唱える多くの人々と勇気ある行動。ドキュメンタリーだからこそ描ききれた真実。環境・命の問題が真剣に考えられなければならぬ現在、田中正造と野に叫ぶ人々が今、私たちに語りかける。

「眞の文明は山を荒らさず川を荒らさず

村を破らず人を殺さざるべし」

中村哲が遺した文章と1000時間に及ぶ記録映像を